

発行所
青森県高等学校・障害別
学校教職員組合
青森市横本1丁目2-25
教育会館017(734)7287
編集発行人 田村儀則
購読料一部20円は組合費
の中に含む

教職員と家族の安心のための
全教自動車保険

- 教職員のための事故対応
- 教職員のための安心・充実の補償
- ロードサービスも充実!

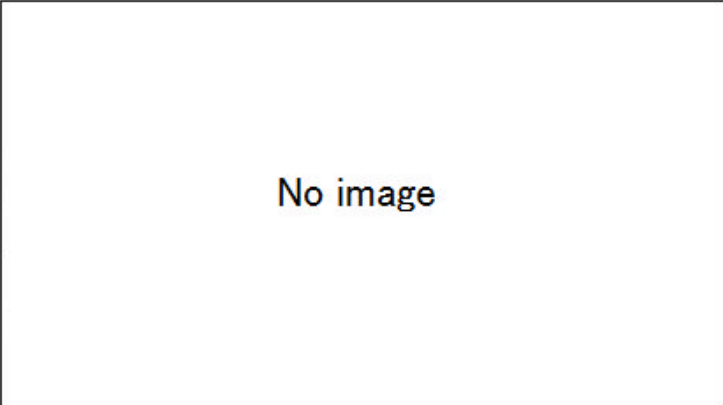
※全教員をセレクトしてご自身の専属自動車に加入し、本会に加入費を納入することで、本会が加入者として加入し、加入者として加入する自動車保険です。

Eメール aokokyos@olive.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.geocities.jp/aokokyoso/> ブログ <http://plaza.rakuten.co.jp/sannkyoso05/>

東北初！臨時講師の年休の年度の繰り越し実現！

教員採用試験受験年齢制限撤廃＆講師経験3年で一般・教職教養試験免除！

高教組が長年にわたって県教委に求めていた臨時講師の年休の年度を超えた繰り越しがようやくこの2015年度から認められることになりました。東北では初めての改善です。また、教員採用試験の受験年齢制限はこれまで50歳でしたが、これが撤廃されることになりました。さらに、直近の5年間において、本県で3年間の臨時講師経験があれば一般・教職教養試験を免除されることになりました。うれしいニュースですね。



4月5日の虎の穴オープンの様子

県内各地から喜びの声が寄せられています。50代の方から「私もこれで再チャレンジする権利があたえられたんですね」。この春、関東で教壇に立つ20代の方から「知らなかった。もっと早く知りたかった。でも、将来に希望がもてました」。30代教諭の方から「やっとかという気もします。それでも大きな前進ですね」。30代の臨時講師の方から「常勤の講師は担任や部活の顧問など激務で勉強などしていられます。少しでも負担が減ったこと、うれしく思います」。同じく30代の臨時講師の方から「涙が出るほどうれしいです！

これでやる気が倍増しました」。たくさんの職場の、臨時講師の方やまた臨時講師を家族にもつ方、そして臨時講師のみなさんとともに働く教職員のみなさんから「組合頑張ったね。」というたくさんの励ましの声をいただきました。ありがとうございます。青森高教組は30年以上前から臨時教職員制度の問題点を指摘し、その改善を粘り強く県教委に働きかけてきました。昨年は3月31日の「空白の一日」について、保険証を取り上げられることなく、これまで全額自己負担だった3月分の社会保険料を県と折半にさせたり、8年前から臨時講師の赴任旅費も支給させたりなどの待遇改善を実現してきました。

同じ仕事をしているのなら、同じ待遇を求めるのは当たり前、「同一労働同一賃金」と考えます。今年、これまでたくさんの卒業生を送り出し、臨時講師のみなさんを応援してきた教員採用試験対策講座「虎の穴」は10年の節目を迎えます。青森高教組は、これからも変わらず現場で頑張る臨時講師のみなさんを応援していきたいと思えます。

坂道の風

高教組新聞3月号で多忙化解消検討委員会に関する記事を掲載した。県教委は2004～5年にも勤務実態調査を行ったが、今回はその他に初めて勤務時間調査も行われた。これは2週間分の勤務時間を調べたものだが、これにより得られた時間外勤務時間を2.17倍したものが一ヶ月相当の残業時間と見ることが出来るだろう。結果は中高(特別支援学校含む)平均で85時間を超えという驚くべき時間数であった▼厚労省が発行している冊子「過重労働による健康障害を防ぐために」では、月45時間以上の残業になると、時間数に比例して健康障害のリスクが高まるとある▼この検討委員会では「多忙化」ではなく「多忙感」を解消するという意見も出たようだが、それが長時間残業の解消は行わないという意味なら考え直して欲しい。健康障害が起きる前に対処した方が、労働者個人にも職場にもダメージが少ない。何よりも我々を人間扱いして欲しい。(ギスケ)

春

が駆け足でやってきました。春を待っていた花々が町の隅々に咲き誇っています。私たち教職員の職場にも春の風が吹いています。今年4月から臨時教職員の待遇改善が続きま

した。私たち高教組の長年の願いが叶い、本当に長い冬から春に雪解けが来たように感じます。

1. 教育・給与制度の大幅な改善と臨時教職員の待遇改善

昨年度は教育委員会制度改善、給与構造の総合的見直し強行、教育長が査定昇給実施に言及するなど、教育界にとって大きな改善と動きがありました。一方で、勤務実態調査実施、月例給増ボーナスアップ、臨時教職員の年度を超えた年休繰り越し実現、臨時講師受検の年齢制限撤廃、一部教員で一般教職教養試験の免除など勤務条件改善やそれに向けての動きがありました。

2. 多忙化解消に向けて

今年度は多忙化解消が活動の柱の一つになります。昨年度の県教委の勤務実態調査でも明らかのように、現在の学校運営は教職員のサービス残業に支えられて

います。教職員の現職死亡率や病休の推移を見ても、多くの教職員が現状に悲鳴を上げています。県教委は多忙化解消検討委員会を立ち上げ、多忙化の解消に足を踏み出しました。

新たな地平をめざして

青森高教組 執行委員長 田村 儀則



具体的な対策を求めて運動を強めていきたいと考えています。

3. 査定昇給導入を許さない闘い

もう一つの大きな活動は、査定昇給導入について県教委と協議することです。現在実施されている教員評価制度は教職員の資質向上のための制度であり、それを査定昇給のベースにすることは困難です。査定昇給制度は同僚性や研修権を破壊するもので、教育現場にはなじみません。

4. 大きく翼を広げて

今年度は夏に近県で教育のつどい全国集会、11月に青森県で全国教職員学習交流集会が開催されます。青FANZ(青森県青年教職員学習会)では様々な企画を検討中です。来年1月には青年教職員沖縄の旅なども考えています。現在のような激動の時だからこそ、大きく翼を広げて、大きく和を広げましょう。権利は与えられるものでなく、切り開いていくものです。皆さんのご協力と加入が私たちの運動を支えます。高教組に加入し、一緒に新たな地平を築いていきましょう。

2015年本部執行委員会の体制

特別執行委員	執行委員							執行委員長	執行副委員長	役員名・担当		
	書記次長・障害児学校部担当	書記次長・現業職員部担当	東青支部担当	中南支部担当	三八支部担当	上北支部担当	西北支部担当				下北支部担当	実習教員部担当

2015年度から変わります

- ・臨時講師の年休の年度の繰り越し
- ・教員採用試験の年齢制限撤廃
- ・講師経験3年以上の者の採用試験の一般・教職教養免除
- ・修学旅行引率手当 日額 3,400円→4,250円
- ・対外競技等引率手当(部活等の対外競技の引率) 日額 3,400円→4,250円
- ・部活動指導手当(勤務時間外の4時間以上の部活等の指導) 日額 2,400円→3,000円
- ・単身赴任手当 基礎額月額 23,000円→30,000円
- ・再任用職員に単身赴任手当・住居手当を支給
- ・退職手当の改善(退職前の職責に応じて加算する調整額を引き上げる)
- ・期末勤勉手当(ボーナス)の役職加算の改善
- ・現業職員昇格基準の4級の在級年数を1年短縮
- ・「給与制度の総合的見直し」により給与の平均2%、最大4%引き下げ(現給保障あり)

secret

特別寄稿

高教組運動を振り返る

～今春退職された組合員の方から～



No image

私の父は国鉄労働組合、いわゆる国労の役員をしていて国鉄からJRへ移行するときに大きな弾圧の中にいた。同じ職場の労働者が「日和見主義」で国労から脱退していく中、最後まで国労の旗の下で闘って、国労で退職した。その姿は、私に、組合活動の重大さと労働者が組合活動をするのは当然であることを教えてくれた。

そして、私自身の組合活動は宮城高教組から始まり、父の影響のためか当然のように、自分から組合加入届を書いた。当時の職場ではヒロシマ修学旅行の実現のために、県教委や校長との交渉が続き、私もその

下北支部

田名部高校分会

小川 勉

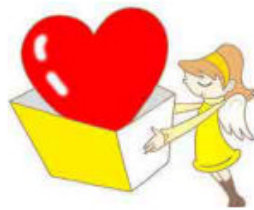
渦中にいた。粘り強い闘いの末、ヒロシマ修学旅行が実現したことは、今でも私の誇りである。

青森県へは40歳で採用され、初任校は鶴田高校で、この時も、自分から加入届を分会長に提出した。青森高教組では教研活動に力を入れた。全国教研・つどい

No image

私が高校生の時は全国で反戦運動、大学闘争が花盛りで、私の高校でも青森県で唯一卒業式ポイコットを闘い、その影響で教員になったときは当たり前前に組合に入りました。
新採用で主任手当反対ストライキ、君が代反対などいろいろありましたが、40年組合員として一番よか

の理科分科会の司会を、途中の中断もあったが、10年務めた。また、レポーターとしても参加した。
この短い組合活動期間ではあるが、やはり娘たちが理解してくれたことは嬉しい。私の東京での集会の後のお土産が大きかったかもしれないが・・・



東青支部

青森西高校分会

下山 昌一

ったことは、「私には全国に多くの組合の仲間がいて一人ではないのだ」を心の支えにして、あらゆる教育・労働課題に臆することなしに職場で意見を述べることでできたことです。心配は遠方への左遷だけで、まじめに仕事している私を飛ばせるなら飛ばしてみろ、という気持ちでした。

No image

私が組合に加入したのは43年前です。高校卒業と同時に教育事務として採用され、大先輩である番地さんのいる八東高に着任しました。山登りや組合活動に誘われ、気がついたら組合と労山(日本勤労者山岳連盟)に入っていました。退職まで続けてこれたのは、この



次によかったことは、職場では、組合員が、同じ組合だというだけでなんとなく心の許せる、本音を話せる、安心して相談できる同志でした。今の若い未組合の人を見ると信頼できる仲間がいなくて困り事が起きるときは大変だろうなと思います。うつ病の教員が増えている理由が理解できます。一人では非力な労働者に組合は必要です。

東青支部

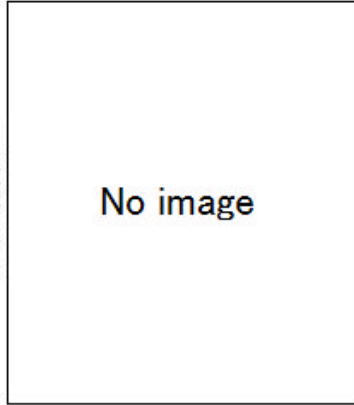
青森中央高校分会

田中 真理子

ときの組合の仲間との一体感を経験できたからだと思います。
父が倒れ青森に戻ってきましたが、八戸での五年間は私の宝物となっています。その後結婚、出産、子育てと組合員の夫をサポートしながらの活動しかできませんでしたが、今は亡き友人の先生に「高教組新聞」に私が載っていると、職場が変わっても新聞見たよと必ず声をかけてくれ、随分励まされました。

組合がなくなっても現場は変化がないかもしれませんが、でも何が真実なのかしっかりと見極めて、仲間を増やし力にしていかなければ大切な権利がどんどん奪われていくと思います。誰もが人間らしい暮らしができる、お互いを思いやる世の中をこの目で見てみたいと切に思います。退職しましたがこれからも運動に参加し頑張りたいと思っています。

組合加入を呼びかけ 辞令交付式で資料を配布



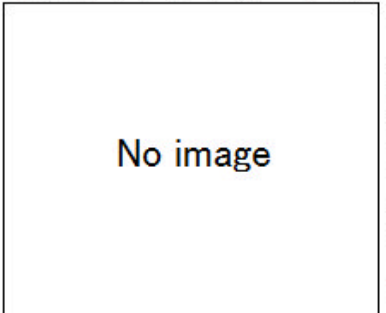
No image

4月1日県教職員新任者への辞令交付式が県総合学校教育センターで行われ、新任者に対し、組合加入を呼びかけるチラシ等を配布しました。
「教職員の権利などを説明したパンフレット(「なるほど!パンフ」)が入っています」と声をかけると、多くの新任者は興味深そうに聞き、封筒を受け取りました。新任者の中には、「16年目にしてついに合格しました」という方も。このような現状を見るにつけ、「教育に臨時はない」という組合が掲げるスローガンを、強く訴え続けようと再認識しました。

折しも翌日の4月2日には、県教委から採用試験の改善決定の報告があり、長年の高教組の要求が実現されたことになり、組合活動の意義を理解し、多くの先生方の組合加入を呼びかけます。

新町通に大きな反核のうねり ～さよなら原発・核燃「3.11」青森集会～

さる、3月15日(日)に表記の集会在リンクステーション青森大ホールで開催されました。集会後、新町通をデモ行進し、青森県庁を包囲してシュプレヒコールで県庁に向かって氣勢を上げ行動は終了しました。
12時半から開催された集会には約1200人が集まりました。特別講演は詩人・アーサー・ビナードさんでした。演題は「津軽海峡・核の冬景色」で、アメリカでの自分の生い立ちや被爆・原発・政治の話をしてくれました。
彼がアメリカの被爆者であるにもかかわらず、今まで何も運動をしてくれなかったことが「人生の自殺行為」であったとし、暴走する為政者に対して反対運動をしていくことの重



No image

虎の穴オープン! 10年目のスタートです

4月5日日曜日、青森県教育会館で『虎の穴オープン』が開かれ18名が参加しました。

まずは、昨年の採用試験一次試験の問題分析です。各担当スタッフが出題傾向、難易度、ポイントを押さえて解説。昼食休憩のあとは、『虎の穴』卒業生の合格体験発表です。2名の方が自分の勉強方法、自分

なりに工夫したポイントについて発表しました。「いづから勉強を始めたのですか」「小論文は誰に添削してもらったのですか」「実技の準備はどうしましたか」などなど参加者からは休み時間も質問の嵐。そして、集団討論演習。小グループでの1分トークから、2つのテーマでディベートもしました。大いに自分を

語り、意見を述べ、お互いの考えをぶつけ合いました。

No image

た。虎の穴では徹底して集団討論を演習します。集団討論は場数を踏むことが肝です。4月25日の『虎の穴I』での再会を誓って解散しました。
次回は、採用試験の願書の書き方を学びます。今年こそはと思う方は是非参加を!

全教共済

くらしの賠償責任共済

ご家族まとめて、掛金は月々150円
個人賠償責任補償は国内特約(示談代行付)です

●●● 例えば、こんな時に補償されます。 ●●●

- 自転車で行行人にケガさせた
- 子どもが遊んでいて近所の家のガラスを割ってしまった
- 愛犬が人に噛みついた

全教自動車保険

教職員のための自動車保険、えらんでますか?

- 「被害者救済・加入者保護」の事故対応で教職員を守ります
- 教職員のための安心・充実の補償をご提供しています
- 教職員のカーライフをトータルでサポートします

全教自動車保険は、全日本教職員組合が東京海上自動と提携して実施する自動車保険です。